

中濃消防組合地球温暖化対策実行計画に基づく公表

令和7年7月1日
消防本部総務課

中濃消防組合地球温暖化対策実行計画に基づく令和6年度温室効果ガス排出量及び各種エネルギー使用量実績状況を公表します。

1 事務事業により排出された温室効果ガス排出量

《基準年度》 平成30年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	基準年度 からの比較
361.1 t	361.8 t	369.6 t	385.7 t	381.8 t	378.6 t	17.5 t (104.8%)

2 事務事業により使用された各種エネルギー使用量及びCO2排出量

		平成30年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
ガソリン	使用量	25,832.9 ℓ	25,832.9 ℓ	28,436.7 ℓ	30,078.1 ℓ	28,698.3 ℓ	28,682.9 ℓ
	CO2 排出量	59.932 t	59.932 t	65.973 t	69.781 t	66.580 t	66.544 t
軽油	使用量	12,057.4 ℓ	12,057.4 ℓ	11,171.9 ℓ	11,637.6 ℓ	10,737.6 ℓ	11,256.6 ℓ
	CO2 排出量	31.108 t	31.108 t	28.824 t	30.025 t	27.703 t	29.041 t
電気	使用量	487,740 wh	487,740 wh	495,166kwh	515,185 kwh	518,118 kwh	509,962 kwh
	CO2 排出量	270.695 t	270.695 t	274.817 t	285.927 t	287.555 t	283.029 t
総排出量		361.735 t	361.735 t	369.614 t	385.733 t	381.838 t	378.614 t

3 温室効果ガス排出量に関する分析

令和2年3月に策定した「中濃消防組合地球温暖化対策実行計画」に基づき継続的に分析を実施しています。

電気使用量の多くは、空調設備の使用が大きく影響しています。気候変動の対応により快適な環境を整えることも重要ではあるが、消防の場合は通信指令に係る機器（指令センター・無線設備・無線基地局）等は24時間体制での空調が必要となるため、影響が特に大きいところであると考えられます。

燃料使用量の主たる要因は、各種の出動であります。

特に救急出動件数は年々増加傾向で、また、救急活動支援による消防車との連携出動件数も並行して増加していることで、消費削減対策が困難な現況であります。